

今日までに、世界各国でウイルス感染によって莫大な数の生命が蝕まれ、奪われてきた。特に、現在では、HIVウイルスによるAIDSやエボラウイルスによるエボラ出血熱などがアフリカを中心に世界へと広がり猛威を振るっている。そこで私は、これらの致死率の高いウイルスたちは人間や他の動物に感染し、それらを殺してしまうが、ウイルスたちが宿主とした動物たちが死んでしまえばウイルスたち自身も同時に死んでしまうという矛盾した関係性に深く関心を持ち、また、それと同時に疑問を抱くようになった。何故彼らは死と直結するような生き方をするのか。

この疑問に対し、私は、ウイルスは人間が持っているような理性がないため、長いスパンで将来を見据えて生存するのではなく、今現在を本能に従うことで生存し、目先の欲に食らいついた結果、自分を追い込んでいることに気付かず、死んでいっているのではないのか、という仮説を立てた。しかし、この仮説を客観視すると現在ウイルス感染が蔓延している問題には結び付かない。むしろ、ただ消滅を繰り返し減少する一方である。

そこで、今日世界中で蔓延しているウイルス感染症の詳しい被害や被害の拡大の理由などを調べることにした。先に挙げたように、今日被害が増大しているウイルス感染の代表と言えば、AIDSとエボラ出血熱であろう。まず、AIDSは、ネット版の日本経済新聞の記事によると、2016年現在でAIDSに関連した死者は推計100万人で、ピークだった2005年に比べ、ほぼ半減したとされているが、医療品の開発が無ければ減少傾向は見られなかっただろう。また、エボラ出血熱では、世界保健機関（WHO）は、2014年10月25日現在、感染者数が疑わしい人も含め1万141人に達し、死者数は4922人（集計は感染者を確認した8ヶ国が対象で、23日までの合計）であるとされ、これも増加傾向にある。そして、さまざまなウイルス感染症全体で被害が拡大している理由は、まず、グローバル化を背景に、既に感染した人が国から国へ移動し、逆に感染していない人がウイルス感染症の蔓延している国へと渡り、そこで感染したのちに帰国し、またそこで感染が広がるというものがある。また、地球温暖化によって、高温の地域でのみ見られていたウイルス感染症が、気温がそこまで高くなかった高緯度地域にまで分布が広がったためである。このことから、医薬品の開発など人の手が加わらない限り、ウイルス感染症は減るどころか、増えることが分かった。

では何故宿主が死ぬことでウイルス自身も減るのに被害は拡大していくのか。調べてみたところ、ウイルスが動物に感染していくのは、ウイルスは個体の存続よりもそれ自身の遺伝子の存続を優先し、宿主が死ぬ前に新しい宿主に感染すればよいのだとあった。この解答が正しいのであればウイルス感染症が減らないことにも頷ける。そして、ウイルスは自分が消滅するために宿主に感染するというような愚行ではなく、彼らの目的である遺伝子を残すための策略であり、増加を続けているウイルス感染症においてはその策略が功を奏していると言えるだろう。以上のことからウイルスの行動には矛盾はなく、愚かではないと分かった。

これらを踏まえて、私はある動物の行動が矛盾していてとても愚かだと考えるようになった。それは人類である。人類は、目先の欲に従い、楽な生活を追求するあまり地球温暖化という環境問題にまで発展した。先に挙げたように、ウイルス感染症の被害を拡大させる要因の一つに地球温暖化があった。それにより、私たち人類が死に至る可能性が高まることになる。遺伝子の存続よりも個体の存続を望む私たち人類など多くの動物にとってこの行動から成る一連の問題は害でしかない。政府や国際的な会議では、地球温暖化に関わる温室効果ガスなどの規制を謳った条約が数多く存在しているが、私たちの中にはそれを意識しながら生活している人がいるだろうか。地球上で唯一理性を持つ動物である私たち人類が動物たちの先頭に立ち、動物の代表となって責任を持ち、この問題に向かい合わなければならないと私は考える。